

乳幼児の健診について

町立金山診療所
 小児科 医師 藤山 純一

今回は乳幼児の「健診」についてのお話です。子供の健診には、生後1ヶ月、4ヶ月、10ヶ月、1歳半、3歳、保育園・学校の健診などがあります。1ヶ月健診は生まれた産科や病院で行われ、4ヶ月から3歳健診はおもに集団で行われます。それぞれの健診ではどんなことがポイントで、どんな所をみているのでしょうか。

嘔吐はよく見られるもので体重増加が良ければ心配ありませんが、噴水のような嘔吐で体重増加が不良な場合は肥厚性幽門狭窄症などを考えます。また、異常な心雑音があれば先天性の心臓病を考えます。

4ヶ月頃には、体重は生まれたときの約2倍になり、首座りが完了し、追視ができ、あやすと声を出して笑います。健診では座位で光への目の動き、音への反応、眼瞼結膜で貧血の有無、首のしこり、心音などを確認、仰向け寝で腹部のしこり、そけいヘルニア、停留精巣、股関節の開排制限の有無などを見ます。引き起こして頭が不安定でも、腹ばいで頭を上げれば首は座っています。

10ヶ月頃までには大きな異常は大体見つかっていきます。安定したお座り、ハイハイ、つかまり立ちなどが出来るようになり、物を上手につかみ、人の動きをまねたり、喃語を話したりします。これらに問題があれば発達の遅れを考えます。また視力や聴力障害もはっきりしてきます。

1歳半では上手に歩き、手先も器用で明らかな言葉も話します。健診では運動発達と精神発達の確認に重点を置きます。歩行は安定しているか、過剰な行動はないか、「こんにちは」「バイバイ」などの話しかけへの反応などから発達障害、多動症などのチェックを行います。

3歳では走ったり階段を上ったり片足立ちをしたり、自分の名前や3語文を話し、友達と遊べるようになります。1歳半ではわからなかった発達の遅れ、自閉スペクトラム症、視覚・聴覚異常などがはっきりしてきます。自宅でのささやき声による聴力検査、ランドルト環での視覚検査、会場での屈折検査器での斜視・屈折異常の検査、歯科検診も行います。

健診は発育や育児の大事な確認の場であり、病気の早期発見の場です。必ず参加するようにしましょう。また問題があった場合でも、すぐがっかりしたりせずに「かかりつけ医」に相談するようにしましょう。

交通ルールについて
 再確認をしてみましょう！

車を運転する際は、交通ルールを遵守し、安全運転に努めなければなりません。今回は、普段運転する際に特に注意してほしい交通ルールと違反について再確認し、正しい知識を身に付け無事故無違反で安全運転に努めましょう。

▼運転中の携帯、スマートフォンでの通話、操作は禁止です。
 赤信号で停止中であっても、その後運転を再開した際に継続してスマートフォン等での通話や操作をしていけば違反になります。また、通話や操作に気を取られて信号の変わり目を誤認すれば交通事故を誘発する危険性も高いことから、携帯やスマートフォンでの通話や操作は安全な場所に車両を止めてから行うようにしましょう。

▼シートベルトは全席で着用しましょう
 2008年から一般道路、高速道路等に関係なくシートベルトの全席着用が義務付けられました。大切な命を守るため、自分だけでなく、助手席・後部座席の同乗者にも必ずシートベルトを着用させてください。

▼横断歩道のない交差点においても歩行者が優先です
 横断歩道はもちろん、横断歩道の設けられていない交差点またはその直近も歩行者が優先です。交差点又はその直近で歩行者を見つけた場合は、横断者が安全に道路を横断できるよう車両を停止し、手ぶりなどで横断を促すなど、思いやりのある運転に努めましょう。

正しい交通ルールを再確認し、安全で事故・違反のない運転を心がけましょう。



「わたしと金山」 No.13

林 寛治

金山町保育園(1977)
 現・金山ハウス(2019)

金山町保育園は1949年に開設されたと聞いておりました。めばえ幼稚園誘致開設が決定された一方で、保育園は戦後も多くの施設でもあり、老朽化が進んでいるとの町民意見がでたそうです。めばえ幼稚園との施設環境調和を図るということで、増改築整備が決まり、1976年金山町からの私の公の初任事になりました。七日町公民館に隣接した既存保育園を運用しながら、その東側奥に既存の一保育室を残して新しく整備する増改築でした。現在の大柳公園は単なる広い空き地だったので、日照と眺めの良い遊戯グラウンドと想定して計画しました。

「保育」の名の通り、0歳児保育受け入れを前提とした施設ですから幼稚園とは異なる管理要素が必要です。そこで調理室、食事室、機械室群と保育諸室とを明確化して、遊戯室ステージで連携させました。コの字を縦にした平面構成はそれぞれ日照と通風を意識したのですが、金山の夏は暑いので、庇は金山伝統住宅に倣い深めにしています。

当初の計画との見込み違いは、遊戯グラウンドと見なした大柳公園の整備が保育園竣工直前に始まったこと

で、園側と植栽等で区画され、遊戯室・足洗い場等の機能が損なわれたことです。公園と一体化した保育園となることで金山保育の独自性の第一歩となる筈でした。設計作業とは別に、新保育園舎の建設計画敷地内の中央部を横断するように、既に存在していない小水路が固有地として書類上でのみ残っていることが見つかりました。この時、役場側の保育園改築担当者であった小沼均さんが上部各機関と大奮闘の交渉を行い、無事に建築確認がとれました。

めばえ幼稚園と金山町保育園増改築が出揃ったこの時期は、町全体が上昇気分であった気がします。「大堰」の石積み水路整備も寒河江一隆さん担当で始まったことなど、新しく整備する「全町美化運動」に続く胎動があったようです。

保育園工事中に岸宏一町長から連絡があり、山形県から公営共同住宅の予算がついたので工事を見てくれと言われました。保育園の現場監理で金山に出張した際に町長室で見た県の書類によると、平屋根の3階建て鉄筋コンクリート造で断熱材皆無の標準設計書付き図面と予算書でした。6500万円位の予算だったと思います。初期の全国画一の旧建設省標準設計で積雪寒冷地であることの地域性はおろか居住性を無視したものであったのです。町長からは「どうせ現場往復のついでだから、30万円で工事の監理をしてくれ」と言われたので、私は「間取り以外を設計変更して良ければ20分の1の設計監

理報酬で我慢する」と答えました。これが七日町団地1号棟の話の始まりでした。

設計変更の内容は、県標準設計予算は変えずに、①平屋根を切妻屋根にして鉄板葺き仕上げに②外装モルタル+リシン仕上げを鉄筋コンクリート打ち放し造+塗装仕上げ③外壁面内壁に断熱材25t貼り付け下地④居室開口部アルミサッシ内部には引き違い障子戸を設置。以上の4点でした。

この金山初の鉄筋コンクリート造公営住宅は、工事中に3階部分コンクリート工事の全面打設やり直しなど大問題がありました。担当建設会社の技術は、これを機会に飛躍したと思います。

後日私は県庁に呼び出されて、勝手に設計を変えたと担当部長から絞られました。設計変更の確認は届け直したと答えて無事でした。その後3棟もの共同住宅予算が県から出されたことから見て、七日町団地住宅の設計仕様変更は前向きに認めてくれたようです。



1977年春
 増改築竣工時、保育士と町関係者

～飲酒運転撲滅・冬の交通安全県民運動～ 12月11日～20日まで

年末はお酒を飲む機会が多くなる時期です。すぐそこ、わずかな距離でも飲酒したら運転することはできません。飲酒運転は犯罪であり、自分だけでなく、家族や同僚関係者すべてを不幸にします。飲酒運転を絶対に「しない、させない、許さない」を徹底し、危険運転は絶対にやめましょう。

冬も本番に入り、積雪や路面凍結などの道路環境の悪化等による重大事故が懸念されます。特に12月は年間で最も交通事故の発生が多い月です。車は早めに点灯し、スピードは控え目に、歩行者のいる横断歩道で確実に停車するとともに歩行者は明るい服装と夜光反射材「命のバンド」を着用し、交通事故を起こさない、遭わないようにしましょう。

また、侵入窃盗や車上狙いなど、身近で発生する被害や、特殊詐欺の増加が懸念されます。事件・事故のない安心して暮らせる町づくりを地域全体で取り組みましょう。

関 役場町民税務課 くらし安全係
 ☎ 29-15609